

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジン

Shall We Juggle?

13



特集：J J F 2 0 0 2 川崎



写真 / 西川正樹

JJF2002

開催日：2002年10月5日（土）6日（日）
 時間：9:00 開場 21:00 終了
 場所：神奈川県川崎市中原区 とどろきアリーナ
 内容：チャンピオンシップ・ワークショップ・種目別発表会・ゲーム・フリーパフォーマンス・ナンバーズ記録会・ショップ・協会総会
 参加者数：5日 177名・6日 157名・ゲストステージ約 150名

ゲストステージ

開催日：2002年10月4日（金）
 時間：18:30 開場 19:00 開演
 場所：東京都世田谷区立烏山区民会館
 出演者：Dana Tison (デナ・タイソン)・シリウス

実行委員会 (メーリングリスト登録者：五十音順)

青野卓也・池田洋介・潮元太・大石直弘・奥田浩・笠見敏行・加藤邦道・川井田康礼・久保肇・香田英一・近藤英之・佐々木綾・末吉正和・高木洋輔・長克成・寺澤永・中嶋潤一郎・中村洋・西川正樹・西野順二・西原伸也・能見学・広幡章登・本郷仁一・松浦和也・矢熊進之助・ロディ・脇坂崇平・渡邊彰

チャンピオンシップ

参加数：16組
 審査員：上田寛 (2001年度チャンピオン)・中島潤一郎 (協会理事長)・池田洋介 (協会理事)・矢部亮 (IJA2002 ジュニアチャンピオン)・デナ・タイソン (ゲスト・プロジャグラー)
チャンピオンシップ個人部門
 順位：1位 山口真吾・2位 大塚剛史・3位 山田純也
チャンピオンシップチーム部門
 順位：1位 Add (竹本如洋、佐藤佳子、茂木和徳)



写真 / 西川正樹

特集 JJF2002

2002年10月に川崎アリーナで開催された日本ジャグリング協会の最大のイベント、JJF2002 についてお知らせします。

報告 1

実行委員長から

報告 2

各種イベント、チャンピオンシップ結果レビュー

報告 3

参加者レポート

報告 1

実行委員長から

運営側から

見た JJF

JJF2002 実行委員

長 加藤邦道

JJF2002が終わりました。このイベントは大成功だったと言っています。参加人数や日本のジャグリングレベルの向上という意味でもそうですが、参加した1人1人が「楽しかった」「有意義だった」と言ってくれたからです。

今回、私が実行委員長を引き受けるにあたって特に気をつけたことは「実行委員自身が楽しめる」ということです。実行委員というのはジャグリングが好きで、JJFに参加することを最も楽しみにしている人です。そういう人たちが一般の参加者と同じ金額を払って参加し、しかもボランティアで働いてくれるのに、出たいワークショップに出られなかったり各種ステージを見られなかったりするのでは誰もやりたがりません。その意味でも今年はずっとまわりたいと思います。

という意見をお持ちの方はいいのでしょうか？ JJF実行委員会はいつでも誰にでも開かれています。各地の大道芸フェスティバルのような「見るだけ」のイベントと違い、JJFは自分がやりたいことをする場です。この素晴らしいイベントを来年以降もみんなで盛り上げていきましょう。



写真 / J.N

報告2
各種結果

Japan Juggling

Festival 2002

レポート

報告 池田洋介

つい5、6年前まで日本で5ボールジャグリングができる人なんてほとんどいなかった、...というのはい言ひ過ぎだとしてもまんざら的外れなコメントでもないでしょう。当時日本からこのチャンピオンが生まれることを予想していた人はいなかったでしょうし、100人以上のジャグラーが一堂に会し、いたるところで5クラブや7ボールが乱れ飛んでいる光景が現実のものになるなんて夢にも思わなかったでしょう。

2002年10月6日、7日。今年で4回目を向かえる Japan Juggling Festival(以下JJF)が川崎市とどろきアリーナで開催されました。僕は今回も含めこのフェスティバルに3回実行委員として関わってきたわけですが、その3年を振り返ってみても日本のジャグリング界は大きな変貌を遂げました。参加者の人数は確実に増えジャグリングの認知度の高まりを感じますし、なにより参加者のジャグリングレベルの飛躍的な高まりにはただただ驚かされます。今後間違いなく日本のジャグリングシーンは世界に注目されるよう

になっていくでしょう。そう確信させるたくさんの兆候を感じた今回のJJFを雑感ながら振り返ってみようかなと思います。

Creativity

英語で言うJJFの「Imagination(想像)」と「Creation(創造)」という2つの違った言葉が同じ「ソウゾウ」という響きを持っている日本語は、例えばこれが偶然の一致であったとしてもなかなか深く趣のあるものだなと思ってしまう。大勢の人間が集うジャグリングコンベンションの最大の魅力はなんと書いても集った人間の数と同じだけの「ソウゾウ力」に触れることができることです。声や筆跡がみんな違うのと同じようにジャグリングだって一緒に

の事をしているようでもやはりそこには個性が滲み出してしまっている。それも立派な「ソウゾウ力」。一人一人の小さな「ソウゾウ力」がまた誰かの「ソウゾウ力」を刺激して、体育館の中がみるみる熱い空気で満たされていく。コンベンションという非日常空間がなじめる魔法みたいなものです。

「種目別発表会」はそんな熱い「ソウゾウ力」をぶつけ合う格好の舞台となります。「種目別発表会」とはボール、クラブ、シガーボックス、デビルスティック、ディアボロの5つの種目に分けられ、それぞれの種目に高難易度の技や独創的な新技を披露する場所です。いわゆる「パフォーマンス」ではないため、技の

完成度は高くはありませんが、エネルギーにあふれた新鮮な技にハッとさせられます。言ってみれば技のアイデアのラフスケッチを持ち寄る場所なのです。昨年の「競技会」とは違い、審査や順位付けは行われなかったものの、今年も大勢のギャラリーを集めて熱いアイデアのぶつけ合いが繰り広げられていました。

今回僕の印象に残ったのはボール発表会で手の甲を使っているジャグリングのパターンを見せてくれた中北宏さん。カスケードのみならずシャワー、ミルズメス、キャリーなど手のひらを全く使わずにジャグリングをするという驚異的な技でギャラリーの喝采を浴びていました。

6日に行われた「フリーパフォーマンス」でも個性的な技の数々が披露されました。その中でも2つのなべとボールを使ったオリジナルのジャグリングを見た青木康明さんのアイデアは光るものがありました。また一本のデビルスティックをプロペラでまわしながら、もう一本のデビルスティックをキックアップで蹴り上げ両手同時のプロペラに上げるという神業を飄々と演じた稲手謙二さんはギャラリーからため息にも似た驚嘆の声があがっていました。

「Imagination」「Creation」「ソウゾウ力」。それは誰も思いつかなかった新しい技を開発することでもあり、思いついたとしても誰も実

行しようとは思わないようなアイデアにあえて挑み形にしようことでもあります。既存の枠を打ち破る飽くなきチャレンジ精神に観客の惜しみない拍手は送られます。

Talent

技術的な面で、今の日本のジャグリング界をリードしているのは誰か?その答えが今回のJJFではっきり分かりました。それは疑う余地もなく中学生、高校生であると思うのです。

バンダイのヨーヨーブームに中学生が飛びつき、瞬く間に日本からヨーヨーの世界チャンピオンを誕生させたのは記憶に新しい話ですが、そういう話を聞くにつけ日本の子供たちのポテンシャルの高さを感じずにはいられません。大学のサークルから始まり、徐々に広がり始めたジャグリングのムーブメントは、今の恐るべきポテンシャルを秘めた中高生を巻き込み、一気に花開こうとしています。今年矢部亮さんが成し遂げたジャグリング世界大会の優勝という快挙はそのはじまりではないのかも知れません。

そんな若手の台頭を最も象徴的に表していた事件があります。いや、決して大袈裟ではなくこれはほとんどの人にとって、大事件でした。6日に行われたフリーパフォーマンスのトリを飾ったのは桔梗篤さん、桔梗崇さんの兄弟。お兄さんは中学生、そして弟はまだあどけなさの残

る小学生です。その2人がまだその手には大きすぎるように見えるクラブを抱えて登場したとき会場はほほえましい目を彼らに向けました。しかしそのパフォーマンスが始まったあと、観客の視線が、会場の空気が明らかに変わっていったのを僕ははっきり覚えています。そこで観客が目にしたのは紛れもなく超一級のジャグリングルーティーンでした。音楽に合わせてしっかりと構成されていたのはもちろんのこと、驚かされたのはその圧倒的な技術力です。2人のクラブパスから始まり、次に弟の桔梗崇さんのソロルーティーン。3クラブ、4クラブと高難易度の技をほとんどミスなしで決め、締めくくりは5クラブの安定したカスケード。誰も言葉を使わずにそのパフォーマンスを見つめ、彼が高く投げられたクラブの最後の1本をキャッチしたとき、一瞬の沈黙の後、会場はおそらく今回のフェスティバルで最大級の拍手と興奮の渦に包まれました。

後で聞いてさらに驚いたのは弟の崇さんがジャグリングを始めたのはわずか1年半前だということ。会場を見渡しても5クラブや7ボールを練習しているのはそのほとんどが中高生であることを考えれば、ひよっとしたらそれはもはや驚くには足りないことなのかもしれません。間違いなくいえることがあるとすれば、数年後の日本のジャグリングシーンは確実に彼らを中心に回り始めるという事です。

Performance

今回のJFで僕が(というよりおそらくほとんどの人が)心から楽しみにしていたイベントはチャンピオンシップです。日本で唯一の「ジャグリングの競技会」で、定められた制限時間(6分)でいかに技術的、芸術的に完成された演技ができるかを審査員が採点し、順位をつけます。ジャグリングの競技というものは「異種格闘技」を見るようなもので、それに点数をつける事自体非常に難しいものであり、また本来点数をつけるべきものかというのは是非があることかもしれません。しかしチャンピオンシップが持つ独特の張り詰めた空気の中で演じられるパフォーマンスからは、やはりそこにしか存在しない特別なものを感じさせられて僕は非常に好きです。そこに見るのは単なる6分間の演技内容ではなく、6分という短い時間に凝縮された数限りない試行錯誤と膨大な練習量なのです。演技の裏に垣間見えるもの、そこそがチャンピオンシップの醍醐味であり、多くの人の心を動かしてやまない「何か」であると僕は思っています。

16組のパフォーマーたちが繰り広げた熱演は2時間近くにも及びました。しかし終つてはじめて僕はそれほどの時間が経つたことに気づきました。それだけ全員の演技が見ごたえのある素晴らしいものだったからです。日本で「パフォーマンス」として完成されたジャグリングのショーを見る機会と言つのはほとん

どありません。今回僕はそれぞれの出場者がジャグリングの「演出」ということをどこまでこだわつてくるかと言つことに注目しながら見ていました。衣装、音楽、動き、表情、アピール。それらが確かな技術の上に乗つてはじめてジャグリングは芸術となります。

その芸術性という点では3位を獲得した山田純也さんのパフォーマンスは光るものがありました。白いボールと黒い衣装というコントラストが美しく独特な雰囲気を出していました。またパントマイム的な動きをうまく活用し、ジャグリングの技術以上のものが感じられました。照明装置の整つたステージの上で見れば本当に映えるだろうなと感じさせるセンスのいいパフォーマンスだったと思います。

ディアボロを使つたパフォーマンスでは目黒陽介さんと大塚剛史さんの2人が好対照を成していて興味深く感じました。目黒さんのパフォーマンス



左から：大塚さん、山口さん、山田さん

マンズは惜しくも入賞はしなかったものの、1個から3個までのディアボロを使うハイレベルかつオリジナリティーあふれる手順で、それをわずか1回のドロップだけで成し遂げたというのは実力の高さを感じました。いっぽう大塚さんはディアボロは2個以上当たり前という風潮を逆手にとつて、たった1個のディアボロだけを使う手順。しかし曲をうまくパフォーマンスの中に取り入れたメリハリのある手順は新鮮なインパクトを与えました。結果的にこのパフォーマンスは2位を獲得しました。

技術的に見ればひよつとすると目黒さんの方が上だったかもしれませんが、しかし大塚さんの方はパフォーマンスとして見たときやはり観客を圧倒するものがありました。この違いはどこにあるのか、それはパフォーマンスが常に直面している1つのテーマです。

そしてやはり圧巻は全審査員が全員一致でチャンピオンに選んだ山口真吾さんのパフォーマンスでした。彼のすこさはやはりその技術力にあるのだらうと思つのですが、ビルエツトを多用し、次から次に繰り出される驚愕技の数々はもはや有無をいわさず訴えかけてくるものがあります。最後の決め技は3ボールの3アップクアドラブルビルエツト(4回転)。2年前の「ゴケスト」だったシヨーンマキーの得意技をさらに発展させた技を、しかも1回で成功させたとき会場からは割れんばかりの拍手と歓声が巻き起こりました。

この瞬間会場の誰もが「ゴ」の新しいチャンピオンの誕生を確信したことでしょう。

チーム部門のチャンピオンは今回チーム部門唯一の参加となったApo(竹本如洋、佐藤佳子、茂木和徳)の3人組。実は彼らは何度か個人的に大道芸で見たことがあったのですが、改めてこの場所で見るとその巧さが良く分かります。技術のみならず見せ方、音楽の使い方などがやはり経験の多さを物語っています。もちろん文句なしの金賞を獲得していました。ただ1つ残念なのは今年も(実は4年連続)チーム部門に一組の参加しかなかったということです。チャンピオンシップというお互いを磨きあつていける絶好の舞台には是非来年はたくさんチームが参加してくれることを期待しています。



ADD チーム優勝

「ゴ」には不思議な空気があります。その正体がなんなのかは上手く表現することができないのですが、会場に足を踏み入れた瞬間からもうその空気に飲み込まれてしまつたのです。それは初めて逆上がりできたとき一刻も早く誰かに知らせたくあるあの興奮に似ています。新しく買つてもらったおもちゃを一刻も早くみんなに見せびらかしたくなるあの衝動に似ています。子供の頃に感じたあのうずうずした気持ちを150人分集めたらきつとこんなエネルギーが生まれるのではないかな。

「ゴ」には毎年全員が何か新しいものを持つてきて、全員が何か新しいものを持つて帰ります。そしてそこからまた来年新しいものが生まれていきます。日本のジャグリング界は今まさに夜明け前、まだ地中で蠢く新芽のようなエネルギーを僕は確かに持ち帰ってきました。(文/池田洋介・写真/夏目鶴吉)

報告3 参加者から

J J F 雑感

地図を見ても、ホテルの人に聞いても、アリーナまでは歩いて15分くらいのはずなのに、なかなか着かない。建物さえ見えてこない。荷物が肩に食い込んで痛い。2・3時間しか眠っていないので、体が重い。会場へ向かう人の姿もない。

チアガールの練習の前を通り過ぎると、やっとチアホラ人影が見えてきた。近づくと会場前にたくさんの人がいる。なつかしい顔がある。お久しぶりの人もいる。身内もちゃんといた。急にうれしくて、元気になった。

中へ入ると、丸くて高い天井、広々とした快適な体育館だった。更衣室もとてもきれい。会場の隅にみんな荷物をまとめ、思い思いに道具を手にし、練習をはじめ。

去年は、会場に入るとすぐにセバさんがいた。掲示板のセバさんはあの人だと、名前を聞かなくて勝手にわかった。今年はじめてJJFに参加したうちのメンバーも、同じ事を言っていた。

私はジャグリングそのものよりも、ジャグリングをやっている人の方が、よりおもしろいというか、興味がある。手の甲でひたすらボールをジャグする人。やたらくる



写真 / Kyoko

くる回る人。どんな技も自分なりにしてしまう人。たいていの道具は自分で作ってしまう人。ボールの軌道を数式にして何時間も話し込んでしまう人。何でもやる人。たくさんあっても一つの道具しかやらない人。人はそれぞれに、いろんなことをおもしろいと感じるものなんだなあ。

一見フツーに見える人もそうでない人も、ボールを手にするときまるで魔法使用のように、自在にボールを操る。クラブを投げる、3本、5本、7本・デビル、ディアポロ、シガー、フットバック、etc. 玩具のような道具で、遊ぶ人々。ほとんど男。男のほつが空間能力が優れているせいだろうか。



去年は、変な人たち〜と思った。しかし今年は、目が慣れたせいか、何なのか、ジャグラーってカッコイイ!! と思ってしまうた。みかんやりんごでさり気なくミルズを見せられたら、女の子はぜったい、わ〜面白い、すこ〜い、と思ってしまうだろう。女は遊びっぽいことに熱中する男が、あんがい好きなのだ。(たぶんね。)

なんか、話がそれってしまった。J J F だった。終わってしまったことはすぐに忘れるけど、知り合いになれた人のことは忘れない。お世話になった人のことも忘れたくない。来年も会える、会いたいと思うと、あれもこれも練習したくなる。

みなさん、来年もお会いしましょうね。仙台で！声を掛けてください。ね、去年もいましたねって。それじゃ、また。

kyoko

ナンバーズ結果

ボールイン ワンハンド 順位
名前 記録
→ 小田原 充宏 55 キャッチ

ボールファウンテン (ジュニア部門) 順位 名前 記録
→ 渡辺 栄太 20 キャッチ

ボールシャワー 順位 名前 記録
→ 小田原 充宏 24 キャッチ
→ 森田 智博 23 キャッチ

ボールファウンテン 順位 名前 記録
→ 小田原 充宏 202 キャッチ
→ 佐藤 信春 88 キャッチ
→ 萩原 大輔 25 キャッチ

ボールシャワー 順位 名前 記録
→ 小田原 充宏 22 キャッチ

ボールカスケード 順位 名前 記録
→ 佐藤 信春 55 キャッチ
→ 荒川 天平 23 キャッチ
→ 菊池 亮助 20 キャッチ

クラブ 順位 名前 記録
→ 三好 俊也 88 秒
→ 内村 安伸 34 秒
→ 茂木 和徳 28 秒

クラブパス 順位 名前 記録
→ 茂木 和徳 & 竹本 如洋 165 キャッチ

クラブパス 順位 名前 記録

→ 今村 悟 & 吉野 太郎 82 キャッチ

ディアポロ 順位 名前 記録
→ 矢部 亮 106 キャッチ

クラブ 順位 名前 記録
→ 荒川 天平 23 ジャンプ

ボールエンデュランス 順位 名前 記録
→ 矢部 亮 6分5秒 (日本新記録)
→ 佐々原 鉄宅 8分4秒

リングエンデュランス 順位 名前 記録
→ 松田 吉正 3分23秒 (参考記録)

ゲーム結果

クラブホールディング 順位 名前 記録
→ 松浦 和也 7本 (日本新記録)

ジヨグリング 50m 順位 名前 記録
→ 今村 悟 17秒 29

コンバット 名前 記録
→ 回目 高木 洋輔
→ 回目 今村 悟

サイモンセツズ 順位 名前 記録
→ 山田 純也

シリウス

「このゲストステージでは美しく、すばらしいパフォーマンスを披露してくれたシリウス。そのステージは、ストリート・パフォーマンスではもしかしたら見逃していた、空気を動かす躍動感、心を射抜く視線、そして美しい統一感がありました。今回は、ゲストステージ終了後、興奮冷めやらぬままインタビューをお願いしました。」

文中では、TENSHO(濱村典正氏)を(T)、JAY(安原徹氏)を(J)で表記させていただきます。

「すばらしいステージをどうもありがとうございました。」

(T)いや、最初「ジャグラーさんだけが集まるステージ」と聞いて、正直なところ自分たちでいいの?と思うたんですよ。担当の人に、「僕たちのステージ見たことあるの?僕たちジャグリングとは違うよ。ビデオ送るからじっくり見てね。」なんて、まるで仕事を断らなばかりに何回も聞いたりして。うまくいくかどうか不安だったんですよ。

「楽しく、いいステージで、お客さんもスタッフも大好評でした。」

(T)ありがとうございます。しかし、デイナさんはすごかったですね。ステージ横で小さく騒いでいました。お互いに持ち味というか、スタイルというか、重なっていいので、僕

たちもやりやすかったですし、ステージとしてもうまく機能したんじゃないかと思えます。特にアンコールのところなんか、すごいメリハリだな。なんて自分たちでやっていても感じました。

「「Silurus」について簡単にご紹介頂けませんか?」

(T)ものすごく簡単に言つと、2人もマイムをやっていて、僕の主宰するマイムとダンスのチーム、CHOO-LATE FACTORYを通じて彼と知り合

い、一緒に活動しながら、96年の静岡の大道芸ワールドカップのために結成したユニットです。

(J)ホームページに色々書いているから是非見てください。

「そうですね。あのホームページを見るのが正しいですね。」

(註)下記JAY、TENSHO各氏のサイトにはシリウスのこと、両氏の事その他楽しいコンテンツが満載です!ぜひ足をお運び下さい。

「シリウスさんといえば、6本の手、落ちる首、仮面など、すごくインパクトのある独創的なパフォーマンスが色々あるんですが、ああいう演技はどうやって思いつくんですか?」

(T)シリウスさんといえば、6本の手、落ちる首、仮面など、すごくインパクトのある独創的なパフォーマンスが色々あるんですが、ああいう演技はどうやって思いつくん

か? (T)いろいろな所にヒントが落ちていて、何かを参考にすることもありますが、でも一番多いパターンは「夢」ですね。

「(返す言葉無く・・・)」 (J)そんな人なんです。彼は。(T)夢の中で、新しいパフォーマンスが突如繰り広げられるんですよ。(以下、夢の中のワンダーランドを語る)



「私たちジャグリング界の

まわりには、いわゆる「大道芸」の形式で、ストリート・パフォーマンスをするパフォーマンスがたくさんあるんですが、今日のショーは、そういう雰囲気のない完成されたステージ・ショーという感じがしました。」

(T)基本的に、僕たちはステージのパフォーマンスだと思っています。

(J)ストリートでも、前にいなきや分かんないというか。

(T)2人も、もともとステージが自分を表現する場ですからね。シリウスは静岡大道芸ワールドカップのために結成されたので、その流れで

屋外でもたくさん仕事をしましたけど。

「これからの活動についてお聞かせ頂けますか?」

(J)「TENSHO氏を向いて:彼の生活環境が変わってしまいましたからね。」

(T)今年の4月から、東京を離れて、福岡でパントマイム、ダンスの教室を始めたんですよ。そろそろ後進の指導を、なんて思っていますね。

今までは、いわゆるパフォーマンスとしての仕事は2人です。部分も多かったんですが、まあ、ちよつとえらそうに言わせてもらえば、JAYはもう一人で十分やっていける。

(J)昔はご迷惑をおかけしました。(T)JAYもJAYで、自分のやりたい方向というのがあって、僕自身もそうで、それはシリウスと違う部分ももちろんあるわけ。

(J)まあ、シリウスと個人は全然違うものなんだけどね。

(T)一人が東京、一人が福岡という風になつてしまつと、現実の仕事としては、たとえば交通費が余計にかかるとか、色々制約も出てくるんだけど、シリウスとしては、個があつてのユニットなので、お互いの方向を大事にしつつ、これからはがんばっていければと思っています。

「シリウスと個人とは違うという

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

「シリウスと個人とは違うという

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

終わりに

「パフォーマンス終了後、思つく間もなく急遽設けられたインタビューに快く応じて下さつてどうもありがとうございました。ステージ横でリハーサルを拝見させていたのですが、そのときからもステージをよりよく作り上げるための真剣な様子が強烈に伝わつてくる、まさにプロフェッショナルなステージでした。短い時間でしたが、お二人とも自分の信じる所、大切にしている物をもつた方で、その魅力あふれる「生き様」をお話のかけらに感じました。これからの活躍も期待しています。(中央写真/夏目鶴吉)

「シリウスと個人とは違うという

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと

ますと?」 (J)方向性というか、やりたいことと



写真/西川正樹

ゲストステージ・ゲストインタビュー

ダイナ・タイソン

JF2002 ゲスト・ステージではすばらしい演技とさわやかな笑顔を届けてくれた、ダイナ・タイソン氏。川崎とどろきアリーナにも毎日足を運んでいただき、チャンピオンシッポの審査員、ワークシヨップ、そしてデモンストレーションと大サービスをしていただきました。JF2002最終日にお願したインタビューをお届けいたします。

…ダイナさんとジャグリングのなれ初めについてお話しください。

一番最初にジャグリングを見たのは、3歳の時です。おじいちゃんが3つのオレンジでジャグリングをしてくれて、僕は大喜びだったそうです。

…3歳でジャグリングを始められたのですか？

いや、そんなことは無いです(笑)。でも、おじいちゃんのジャグリングはずっと覚えていて、9歳の頃、ヒマで時間を持て余していた時に、「そうだ、ジャグリングをしよう!」と思ったんです。家にあったテニスボールで、3つのカスケードを1時間でマスターしました。

…すごい才能ですね。

自分ではわかりませんが、でもジャグリングはすごく気に入りましたね。

その時はカスケードができてそれで満足だったんですが、11才の

時、両親が見つけてきてくれたボルティモアのジャグリング・フェスティバルに参加して、その時に「ホンモノのジャグリング」を初めて見ました。それ以来ですね。ジャグリングにはまったのは。

…13歳でJJAのジュニアでシルバーを取られましたよね。

はい。実は、その前の年もエントリーしたんですが、いかんせんジャグリングを始めて数ヶ月で、直前にビビってしまって出場しなかったんですよ。デイビッド・ルーカス(アルバート・ルーカスの弟)に得点で負けたんですが、「みんな僕のほうが良かった、得点のつけ方がおかしい」と言ってくれて、それから審査の方法が今のよう話し合いに変わったんです。悔しかったですね。

…その後もJJAでは大活躍をされました。

1985年にベンジ・ヒルと組んでチームで勝ちました。1987年と89年に個人でブロンズ、89年には個人でシルバーを取りました。あと87年と88年にナンバースで勝っていました。

…アメリカではどのような活躍をされているんですか？

いわゆる、ソロのジャグラーとして、シヨール、ステージ、クルーシッポ、フェスティバルなど、色んなところでパフォーマンズをしています。実は、僕が本当の意味でのプロ・パフォーマーに転向したのは1986年の7月なんです。

…え！それまでは別の仕事をしていたんですか？

ええ。Campus Crusade For Christ という、いわゆるキリスト教系の教団で職員をしていました。そこでも布教のイベントなどでパフォーマンズを時々して

いましたが、でも人前に出るのが実は本当に苦手で(笑)。

…パリパリのプロですとやって来たと思っ

ている人が多いと思うんですが。

写真 /Kyoko



…それは、仕事をやめてパフォーマーになったきっかけって何ですか？

もちろん僕にとっではすごく難しい決断で、理由も一言ではとても言い切れないんですが、でも最終的には、神様がそうおっしゃっていたような気がしたんです。「やりたいことをやれ。」という声が聞こえたんです。

…敬虔なキリスト教信者なのですね。

はい。信仰はとても大事だと思います。

…すさまじい技のレベルですが、どれくらい練習されているんですか？

やっぱり、家族ができてから変わりましたね。練習時間もそうなんです。ジャグリングに対する考え方も大きく影響を受けました。昔は、世界一のジャグラーになるのが目標で、打倒アンソニー・ガットーを指して本当に一生懸命練習しました。最盛期は、毎日8時間を一ヶ月以上続けたこともあります。

でも、今は、プロとして、どれだけお客さんを楽しませることができるか、そういうことを考えるのに時間を使っています。技そのものの練習時間は、週に10時間くらいです。近くの教会のホールを使わせてもらっています。あまった時間は、子供とできるだけ過ごすようにしています。

…家族を大事になさっているんですね。

もう、僕のすべてですね。5歳の男の子と2歳の女の子がいるんですが、今は娘にメモメロです。基本的に、2週間以上家をあける仕事は受けませんね。前に2週間家を空けたんですが、精神的におかしくなりました。JJAもギリギリです。この前40日間の豪華客船の旅にパフォーマーと呼ばれた時は、真ん中の20日間は家族と一緒に乗せちゃいました(笑)。実は今もすでにホームシックにかかっています。



…JJAについてはいかがですか？

僕もJJAですごくモチベーションを受けたので、日本でもこういう活動があるのはとってもいいことだと思います。素晴らしい、僕もすごく楽しんでます。こういう大会に呼ばれて、とってもうれしいですし、誇りに思います。どうもありがとうございます。

…今後の活動についてお聞かせ下さい。

僕は、ダイナ・タイソンという人間に、神様がジャグリングという道具を特別に与えてくれたと思っています。すごくありがたいことです。この能力をしつかり維持しながら、1人でも多くの人が僕のショーを見て楽しんでもらえれば、と思っています。

終わりに

インタビュアー後記：家族を、信仰を、そして自分の人生をととも大切に考えていらっしゃる真摯な人柄が、ひしひしと伝わってくるすがすがしいインタビュアーでした。これからの活躍をお祈りしています。(インタビュアー)中嶋潤一郎

JJF 特集 付録写真集





Japan Juggling Festival は日本で唯一のすべてのジャグリングファンのための参加型祭典です。ジャグリングに興味のある方ならどなたでも参加できます。

ワークショップ(講習会)、チャンピオンシップほか、初心者からプロまで大満足の企画が満載です。もちろん見るだけのつもりでもOK。それでもきっと帰るまでにはあなたもジャグラーの仲間入りまちがいなしです。

おさそい合わせのうえふるってご参加ください!

主催：NPO 日本ジャグリング協会

運営：JJF 2003 実行委員会

URL：<http://www.juggling.jp/> から JJF のページへ

実行委員募集

Japan Juggling Festival(JJF)は、実行委員が中心として企画、運営を行っています。

1999年より府中・京都・名古屋・川崎と年々開催地をかえ毎年各地で名演を繰り広げられてきたこのイベントも遂に5回目。2003年は、その会場を一路東北は仙台へ移し開催されます。

現在、新しい試みと新鮮なスタンスによる企画を検討中。そこで、事前の準備および開催当日のお手伝いをして頂けるスタッフを随時募集しています。JJFの運営に興味がある方ならどなたでも、実行委員会までご連絡ください。皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

JJF2003 実行委員会委員長

本郷仁一

gfe03211@nifty.ne.jp

J J F 2 0 0 3 i n 仙台

編集部注:このページは、2003年3月号 No.14 掲載時点でのJJF情報です

Coming soon
see you sendai

J J F 2003 会場詳細 泉体育館の概要

住所： 仙台市泉区野村字新桂島前 60

利用期間： 平成 15 年 8 月 22 日 (金) ~ 24 日 (日)

利用時間： 9 : 00 ~ 21 : 00

面積：競技場 1,588.71 平方メートル (約 42m x 36.7m)

交通：J R 仙台駅から市営地下鉄泉中央駅まで (約 12 分)

泉中央駅から市営バス > 泉総合総合運動場前下車 (7 分)

泉中央駅からタクシー > 泉総合総合運動場まで (約 5 分弱)

泉中央駅から徒歩 > 所要時間 25 分

自家用車 > 東北高速道路 泉仙台インター より 10 分

注意：運動靴など上履きが必要です。



ジャグっちゃ、
仙台。



Japan Juggling Festival 2003 in SENDAI

実行委員募集

Japan Juggling Festival(JJF)は、実行委員が中心として企画、運営を行っています。

1999年より府中・京都・名古屋・川崎と年々開催地をかえ毎年各地で名演を繰り広げられてきたこのイベントも遂に5回目。2003年は、その会場を一路東北は仙台へ移し開催されます。

現在、新しい試みと新鮮なスタンスによる企画を検討中。そこで、事前の準備および開催当日のお手伝いをして頂けるスタッフを随時募集しています。JJFの運営に興味がある方ならどなたでも、実行委員会までご連絡ください。皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

JJF2003 実行委員会委員長
本郷仁一
gfe03211@nifty.ne.jp

日本最大のジャグリングコンベンション 『ジャパングジャグリングフェスティバル』

待望の次回JJF2003は、
みちのく・杜の都『仙台』にて開催！

詳細は次号にて。

募集といえば...

SWJ 編集部では編集員を募集しています。
編集業務：SWJの企画、編集管理、校正
写真業務：SWJ掲載写真の撮影
記者業務：記事執筆、作成

自由な記事の投稿も歓迎します。
ジャグリングに関するニュース、報告、コラム、論説ほか
ジャグリング協会誌にふさわしい内容であればどんなものでも
半ページ(1200文字)単位で受け付けます。

ご質問は、編集部または、編集長まで直接ご連絡ください。

**定期購読ご希望の方は
ジャグリング協会にご入会ください**

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジン
Shall We Juggle? 第13号

編集長：夏目鶴吉
編集員(13号)：池田洋介・笠見敏行・柴田信義・
高橋さとみ・松浦和也・中嶋潤一郎・萩原大輔
文中イラスト：高橋さとみ

編集部：swj@juggling.jp

日本ジャグリング協会事務局
E-mail：info@juggling.jp
WebSite：www.juggling.jp
郵便振替口座：00100-1-142916
(加入者名：日本ジャグリング協会)

各種お申し込み・お問い合わせは上記事務局までお願いいたします。

本誌バックナンバーご希望の方は一部あたり500円を上記口座にお振込みの上、事務局まで希望の号と部数をお知らせください。

広告のお申し込みについては編集部に直接お問い合わせください。

オンライン SWJ
<http://www.juggling.jp/swj>